BABA lab　さいたま工房

【キーワード】
〔施設種別〕□高齢者施設　□障がい者施設　□子ども施設　■住宅　（空き家利用）
〔運営主体〕□市区町村　□法人　□ NPO　■個人　　〔補助金〕□内閣府　□国土交通省　□厚生労働省　()
〔建物形式〕■１棟単体型　□複数棟集合型　□団地型　　〔建物状況〕□新築　□増築　□改修　□一部改修　■既存
〔対象者〕□高齢者　□障がい者　□子ども　□ファミリー　■多世代

写真１．正面写真

BABA lab さいたま工房はさいたま市南区鹿手袋にあるものづくりの職場で，一軒家の空き屋を利用し，子育て世代の 30 代～ 80 代まで，多世代の女性が働いている工房。

シニア世代のアイデアや経験を活かし，大学や企業との連携で，オリジナル商品を企画製造している。

■施設概要

所在地：埼玉県さいたま市南区別所 7-3-19

施設種別：住宅 (工房)

運営：< シゴトラボ合同会社 >

階数：地上２階

開設年：2011 年 12 月

■事業の経緯

代表の方がもともとおばあちゃん子であったことがベースとしてある。前職の仕事を通して，全国各地へ行っていた代表の方は一次産業が盛んな田舎の方がシニア世代が元気であると感じ，シニア世代が東京や埼玉でも定年にとらわれずに生き生きと働ける場をつくりたいと思うようになった。また職住を分離させたくない思いもあり，埼玉のこの場所で事業を始めた。事業の理念は「100 歳になってもわたしらしくはたらき，いきいきと暮らしつづけられる社会に」である。

■スタッフについて

登録人数は 50 名ほどだが，実際稼働している人数は 20 人程度である。製造スタッフのほとんどがネット等で知り働くようになった地域の方々である。スタッフの構成は，40 代，70 代共にが全体の 35%，60 代が 15%，30 代，80 代が残りを占めるという構成になっている。製造スタッフの方たちの業務は家でできるような内職作業が多いが，ここに作業場を設けることでここが地域の交流の場としても機能している。

写真１．BABA lab の商品
BABA lab さいたま工房の商品や委託商品の販売を作業場の端のスペースに陳列している。　商品にはシニア世代の知恵や経験が反映されている。

写真２．キッズスペース
子育て世代が安心して働けるように，職場の一室をキッズスペースとして使用している。　隣の職場のへやから見守りやすいようにふすまを外している。

■運営について

普段は自社製品を作成している。ほかに委託製品も作成することがある。

なにか新商品をつくるときは周辺大学や近場の事業の方など，まず地域で探すようにしている。

■活動について

事業の理念である「100 歳になっても，わたしらしくはたらき，いきいきと暮らしつづけられる社会に」に基づき，職場ではシニア世代にもできる仕事があるように，作業過程を広報のチラシなどを折るといったような簡単な業務まで細かく分けられており，いくつになってもできる業務がある。

イベントやワークショップは以前までは月に 6 回ほど編み物をしたりする手芸教室を行っていたが，現在は商品の発注が多く，したくても出来ない状況である。

■設えについて

もともと，階段やトイレに手すりがついてあり，オール電化であることは，シニア世代のスタッフがいる上でとても助かったうえに，不便さは全く感じなかった。

インテリアについては，こだわりはださず，唯一，スタッフの目に優しいよう照明など明るくしようと心掛けている。

■課題について

以前は商品の管理が大変であったが，色など視覚から得られる情報で管理するようにしたり工夫をした。また情報共有も困難であったが，LINE アプリの普及で改善されてきている。現在は運営面の課題よりスタッフ個人の課題の方がある。しかしそういったパーソナルな課題や悩みもないがしろにせず，スタッフ全員でカバーする風土がある。これからの課題としては経営を任せられる 3 人目のスタッフの雇用である。現在はふたりで行っており，新しい人材の確保が求められる。

写真 3．作業場とオフィスをつなぐ吹き抜け
1 F の作業場と 2 F のオフィスを行き来せずともこの吹き抜けのおかげでスタッフ間の会話がスムーズなものとなる。

写真 4．ミシンを使った作業光景
作業机が迎え合わせになっており，作業しながら他の色々なスタッフとコミュニケーションがとれる配置になっていた。

写真 5．2 F の廊下にある本たち
代表が本やマンガが好きということもあり，廊下には本がづらりと並んでいて，生活感を感じることもでき，実家のような安心感のある職場である。